

みんなで語る会報告書

- 開催日時 : 平成28年11月21日(月)(19時00分~20時30分)
- 開催場所 : 指宿校区公民館
- 参加者数 : 【市民】29人、【市職員】市長ほか8人、【総計】38人

○ 会次第

- 1 開会
- 2 市長あいさつ
- 3 地方創生について
- 4 意見交換
- 5 地域代表あいさつ
- 6 閉会

○ 意見交換の内容

【市民】

市長も議員も私たち市民が選挙で選び、指宿の舵取りをお願いしている。鹿児島県知事も、指宿出身の三反園さんがなった。また、湯の浜の海岸線でも120億円の国の直轄事業が始まった。指宿は今、追い風が吹いていると思う。

指宿で働きたくても、なかなか仕事が見付からない。企業を誘致できないものだろうか。また、市の職員採用で優秀な人材を確保したいというのわかるが、指宿市外から結構、採用されていると思う。その人たちが指宿に住んでくれればいいが、指宿市外から通勤すれば子どもたちも指宿ではなく鹿児島市内で育ち、指宿はどんどん人口が減る。できるだけ、指宿市から市の職員採用をお願いしたい。

<市長>

先日、いろいろなサッカー場の見学に行った。介護施設が老人ホームの横に、芝生のサッカー場を造っていた。なぜかと言うと、サッカーをする子どもたちの声を聞くことで、施設に入っている方々が元気をもらうそうである。また、サッカー場の芝生の上に車いすから降ろすと、子どもの動く姿を見ると手足を動かすとのことであった。

あと一つ、サッカー場には管理棟があるが、駐車場は広く、施設もいいし、風呂もあるしと、PTAの会合、校長研修会、太鼓や踊りの練習などで60回は地域の方が無料で使っているとのことであった。これからは、子どもたちが楽しく学べ、高齢者も健康づくりができるといった社会貢献のための施設整備をすべきだということ学んだ。

海岸線も、オリンピックや国体までにできないかという願いをしてきた。指宿は自然豊かな、そして観光客も喜べるような場にしてほしいというのが国の考えでもある。

次は、企業誘致の件である。私は出水にもいたことがあるが、誘致したパイオニアやNECなどの企業が14~15年で全て撤退した。そして、米ノ津では2割の親が失業した。議会でも企業誘致の話が出たが、大きな企業というのは労働力が安い外国に工場を移した。特に、鹿児島県はひどかった。地元根付いた、例えば農業の加工など地元でできる企業を作らなければならない。山川に極洋水産が指宿食品を造り、20何人の雇用もあった。売上も年間8億円で、一時期は優遇するが税収もそれだけある。本当に地元根付いた企業にすると、持続性もあり安心して働ける。例えば、この地域でも農業などの第6次産業化で工場を造り、法人化して若者も安定した収入を得ることができるよう企業を作らなければならない。指宿に縁のある企業誘致は、ぜひ図っていききたい。

最後に、市の職員の採用についてである。いろいろな所から試験を受けに来るが、必ず指宿市に

住むという約束をして実際に住むが、結婚相手が鹿児島の場合など喜入等に家移す。しかし、努めて指宿市内に住むように指導はしている。採用試験において私が一番心掛けているのは、本当に必要な人材はどのような能力を持っているのかである。二次試験では特技やいろいろなことを考えながら採用する。指宿商業、指宿高校、そして地域の人たちをというの、今後も大切にしていきたい。いろいろな面で、職員への思いや希望はあると思う。それらの意見についても、ぜひいただきたい。

【市民】

このまま人口が減っていいものか。何かの手立を市民と市が一体となって考えていかないと、人口はまだ減っていくと思う。

畠久保の近くの九州新城というネジ工場には、従業員が100人以上勤めているそうだ。あのような中小企業が指宿にあればよくなっていくと思う。よそでは、田園地帯であった所に工場ができたところ付近に関連会社が次々にできて、何年後には銀行や郵便局、学校までできたようだ。そうすれば、人口も減らず若者も市外に行かずに済むと思う。

<市長>

場所や企業の種類も必要であろう。トップセールスをとおして、いろいろな所に働きかけていきたい。人口減が一番大きな課題である。働く場所がないと人口は定着しない。

【市民】

総合振興計画の中の地熱の恵みを活用したプロジェクトは凍結しており、今日のアンケートでも意見を聴くようになってきている。みんなの意見で総合振興計画は作成したが、どのような流れで凍結されたのか。総合振興計画に基づいてできるだけ進めてもらいたいが、今後はどのように考えているのか。

また、中学校・高校駅伝では、球場から宮ヶ浜の海岸線が公認コースになっているが、草が生い茂りみすばらしい。もう少し、きれいにできないものか。

<市長>

今回の地熱の恵みは、地方創生戦略の一つとして計画をした。これは、委員の方々の意見を基に、総合振興計画や戦略の中に入れたものである。しかし、市民への説明が足りないという意見や、ホテル関係者の温泉が枯れることを心配する声などがあつた。そこで今回、市民へもっと説明をして、市民の理解が得られたならばまたする可能性を残すために、凍結という形にさせていただいた。

地熱発電というのは一つの手段であり、目的は6次産業化等にも生かそうというものであつた。また、外国人観光客の多くはタトゥーをしており、温泉に入ることができない。温泉の文化も違う。台湾では、温泉は楽しむ社交の場になっている。そのようなことを考えていかなければ、外国人観光客が増えてくる中大変だろうということをやつた。

この地方創生戦略とは、どうしたら指宿が観光も農業も元気になるかというものである。出荷されない野菜等を加工し付加価値を付けて、収入の安定を図らなければならないと思っている。このような場所でいろいろと意見を聴きながら、今後検討をしていきたい。

中学校・高校駅伝で4,000万円から5,000万円程度の地域の経済効果があると考えている。だいたい、一人当たり8,000円から10,000円の消費をする。ぜひ、駅伝大会を指宿で開催してもらいたい。その代わり環境を整えると県の理事長等に言っている。菜の花マラソンなど、長距離のメッカとするためには、それなりの環境整備をしなければならないと思っている。

【市民】

最近、男女共に結婚をしない方が多いようである。市が中心となって、魅力ある出会いのイベントをすれば若者も寄って来ると思う。

<産業振興部長>

先日は指宿商工会議所が桜島フェリーの新造船を利用し、山川港で男女出会いの船上パーティーを開いた。これまでも、なのはな館や指宿駅前等で定期的に婚活イベントを開催している。そのほか、世話焼きキューピッドも活動をしており、市の方も協力して事業を行っているところである。

<市長>

ユニークな事例等があれば、市役所の職員にでも教えてもらいたい。

【市民】

中学生まで医療費が無料となっている市町村もあるが、指宿ではどのように考えているか。

<健康福祉部長>

子ども医療費はこれまで段階的に整備し、子育て支援の充実を図る一つ的手段として、平成 27 年 10 月から中学校 3 年生まで医療費を無料にしている。

<市長>

いろいろなアイデアは、また教えてもらいたい。

【市民】

指宿校区も、コミュニティ事業のモデル地区に指定されている。この事業は地元が積極的に頑張らないといけない事業であるが、行政としては今後どのような対応を考えているのか。

<市民生活部長>

指宿校区ではモデル事業をしており、中学生と語る会を開催している。11 月 9 日に第 1 回の全体会が開かれて、今後は 4 地域に分かれて話し合いをすると聞いている。地域づくりというのは行政主導ではなく、コミュニティは地域の方々が考えてつくることがメインになってくる。昨年から地域の課題について話し合っていると思うが、その中で高齢者対策や空き家対策、子育て対策が挙げられている。

福元区の例で言えば、子育て対策としては福元子どもクラブを立ち上げ、高齢者や短大の子どもたちがボランティアで子育てをした。また空き家対策としては、空き家の利活用をして茶飲み場を造っている。

このような先例があるので、今後、指宿校区が中学生も巻き込んで課題が見付かれば、市民協働課にいる地域の支援員も一緒になって地域づくりをしていこうという考えである。

<市長>

一番空き家を利用して成功したのは、串良のやねだん（柳谷集落）である。ものすごく空き家があったが、絵を描く大学生たちに一軒が家を貸してくれて作品を展示したところ、他にも貸してくれるという空き家が出てきた。次に、空き地にさつまいもを植えて焼酎屋に売ったお金で改造をした。すると、他にも貸してくれる畑が出てきた。そして今では、ボーナスを出すまでになった。そのためには、焼酎屋さん、貸してくれる人、そして賛同してくれる住民が多かったということである。

私は、指宿校区ならできると思う。地域の方々がどうしていくか、行政と一緒にどうするかということだろう。

【市民】

空き家を活用しようとする費用が掛かるが、市からの助成はあるのか。

<市長>

やねだんでは、当初、行政の支援を受けていたが手続きも面倒だということで、自分たちで畑を作りながら何とかしようと、2・3年後には行政に頼らないやねだんをつくった。成功すると自分たちでしようという雰囲気が出てくる。最初は、行政も一緒になってしていかなければならないと思う。

【市民】

コミュニティ事業は、指宿校区全体ですか。やねだんも大きな地区ではない。上手や東方地区といったような範囲である。現在、校区というくりでしているのだから、かなり時間がかかるのではないかと思う。校区の中の地区というくりですることにはできないのか。

また、条例公民館とコミュニティ組織を同時にしているのだから、公民館主事にかかる負担が大きいのではないか。その整理を、今後どのようにしていくのか。

<市民生活部長>

コミュニティ事業は、画一的に校区や区ですといった話ではないと思う。例えば、今和泉校区では校区で、福元区は校区ではなく区でしており、お互いに話し合っている。福元子どもクラブについては、町区まで取り込もうかという話まで出ている。

行政が、この校区で、このエリアでと指定するつもりはない。今、指宿校区はモデル事業でしているが、これを細分化して別々にする方法もあると思う。そこは、地域の方々が話し合っていて決めていければと考えている。方向性を見出すまでは、当然、集落支援員もいるので、パートナーシップ推進係が一緒になって検討していければと思う。

<市長>

やねだんでは、豊重哲郎さんが高校生を動かしたところ集落がまとまった。高校生・中学生を褒めると、集落のみんなが仲良しになった。空き家が高校生クラブの活動の場所になり、小学生が学童クラブではなく、その空き家に帰って来て高校生が面倒をみてくれ、親も安心して働くことができた。子どもたちの力を借りて地域づくりを成功したのが、柳谷集落であった。成功した所は、隣近所が仲良くなれるようなシステムを作り、大人だけでなく子どもまでみんなでしている。そのように広がりをもちながらする方法はある。自分たちの所でもやってみようという勇気があるかどうかだろうと思う。

【市民】

指宿の玄関である観音崎の松を、手入れすることはできないのか。

<産業振興部長>

耕地林務課が樹幹注入もして保存に努めているが、今回の台風 16 号で枝も折れてあのような状態になっている。森林組合に委託し、折れた枝を伐採しながら樹勢回復に努めているところである。指宿の玄関口であるので、植栽については国道事務所に定期的に整えてもらえるよう要請をしている。市としても花を植えたり、建設業組合もボランティアで線路沿いの除草作業してくれている。

<市長>

指宿の松枯れは、ひどすぎる。何が原因なのか、抜本的に考えていかなければならない。今和泉のあの景観がなくなると寂しい。

【市民】

以前、危機管理課から、南海トラフ地震があったときにどのように避難するのか、宮ヶ浜でも訓練を実施しようという話があったが台風の接近によりなくなった。今後、どのようなかたちで進めていくのか。また、緊急地震速報のシステムを導入したという話を聞いが、どのようなことをしているのか。

<市長>

宮ヶ浜は学校周辺など海拔の低い地域があり、かねてから訓練をしていなければ対応できないと思っている。計画を危機管理課と立ててもらえれば、市・消防も一緒に訓練をしたいと思う。緊急地震速報については、危機管理課に確認をして回答したい。

【市民】

人口減が一番危惧される。ぜひ市としても、地元の産業が長続きするように援助をするなど力を入れてもらいたい。人口が減れば、農業やいろいろなところに影響が出る。仕事・人口・雇用についてよく考えた施策をとってもらいたい。

<副市長>

地元根付いた雇用ということで、地域資源を大切にしたい企業を育てていかなければならないと思っている。極洋さんが指宿食品という会社を造ったが、かつおという地域資源を使って、地域に根付いた産業としてこれから育てていってもらいたい。

それ以外の食材では、例えばオクラやソラマメといった資源を活用した六次産業化によって付加価値を高め、新しい雇用や創業をしていくといった取組が大切だと考えている。オール指宿でそのような事業を盛り立てていきながら、市長をはじめとしたトップセールスで大消費地の東京や大

販、そして海外への販路を拡大していく取組も、地方創生の事業として進めているところである。

<市長>

働く場所をどうするか。農業の法人化、会社組織にして、若い人はそこで働き安定した収入を得られるとなると、山川高校の卒業生も喜んで従事するだろう。農業は大変だとみんなが言えば、農業に従事しなくなる。農業でも、ほかの仕事でも、儲かる場をつくっていかなければ、人口の減少を食止めることはできない。指宿の一番大きな行政課題であろうと思う。

また金沢市では、北陸新幹線が開業したところ、ホテルで働く人が足りなくなった。そこで、東京のシングルマザーを呼ぶために、家の準備や軽自動車の貸与を行うなど、安心して子育てができる体制をとっている。そのような所も見に行つて、取組まなければならないと思っている。

【市民】

小学校の再編・統廃合問題があるが、コミュニティの核になるのは学校であると思う。しかし、コミュニティと学校がそれぞれに議論がされていると思う。今後の指宿校区をどうするのか、学校再編も含めて議論すべきではないだろうか。今後は、どのように進めていくのか。

<市長>

学校再編は、微妙な問題である。田代小学校は、川辺小学校と一緒にするよう行政に要請した。地域がいろいろと話し合つて、子どもたちをもっと大きな所でということだったのだろう。佐多は1校に、垂水では中学校5校が1校になった。地域の中で賛否両論あつたが、西指宿中学校を例に言えば、免許を持った先生が教えられない教科が出てくる。9教科あるが先生がそろわず、臨時免許を取りながら一生懸命することになり、先生への負担も大きくなる。また、野球部は開聞中と、バレー部は北指宿中と合同でしている。生徒数の減少というのは、子どもたちに負担を掛けている。一方で、地域としては小学校・中学校はあつた方がいいという考えもある。地域を残した方がいいというのは真実である。しかし、今後の子どものこと、将来に向けて子どもたちをどう育てるかということを見ると、保護者、子ども、そして先生方の考え方を聞かなければならない。コミュニティと一緒に検討しなければならぬというのは、正しくそうだと思う。行政主導ではない。コミュニティという範疇の中で、学校をどうするかを考えていかねばならないと思う。

【市民】

学校再編も含めて学校の在り方の方向性を今年度中に決めると市長が言っていたが、まだその時期ではないと思う。学校を含めて地域をどうしたいかという、みんなでの話し合いも途中だと思う。もう少し時間を掛けて、いろいろな人の意見を聞きながら進めてもらいたい。

<市長>

学校の置かれた場所にもよる。開聞や山川では、方向性を早く示さなければ地域も今後どうなるのかを心配している。指宿校区等は別の考え方だろうが、開聞・山川ではそうしてもらいたいという声もある。地域を無視してするということはないが、早く決めてほしいという地域の意見も多く、学校再編についてのいろいろな協議をしている。

<教育長>

子どもたちの数が減るということで、学校再編については平成20年から取り組んできている。これまで地域部会等も設置し、地域の皆さん方の声を聞くように取り組み、今年度からは学校づくり推進委員会を設置し、2年間かけて話し合いをしている。その中で、それぞれの地区でどのような方法がいいのか話し合いをしながら地域の意見を伺いたい。今年度末に方向性を出して、このようにするというスタイルではない。地域でコミュニティ活動の一環として十分に話し合いをしてもらいたい。行政主導ではなく、地域・校区で我が学校はこのようにすべきだということ話し合つていただき、校区によっては早く統廃合をしてほしいという所もあれば、今のままでいいという所もあるかもしれないので、十分に話を聞きながら進めていかねばならない。

山川・開聞地域は小中一貫校がいいだろうという提案が地域部会からあつたのだが、それが決定したかのような話が出ている。今の時点では何も決まっておらず、推進委員会や地域の声を十分に聞く段階である。

<市長>

私が指宿市の学校教育課長のときに、教育委員会の組織を変えて協議が始まってから 10 年が経つが、まだ結論が出ない。行政としての方向性を示さないと、なかなか意見の集約ができない。そういう意味で、山川・開聞地域においては、小中一貫校という方法があるので、そういう方向性でいきましょうというふうに示したいと思う。統廃合がいいかどうかという結果は、子どもたちで見てもらいたい。その後の地域のフォローもしなければならない。今後、人口が減っていくので放っておけない問題だと思う。ぜひ、議会を含めて一緒に考えていきたい。